パートナー情報誌
香澄
かすみ
Kasumi

環境学習成果発表会・環境学習フェスタの報告 1P
クリーン UP 後期活動報告・活動計画 2P
植物同好会後期活動報告・活動計画 3～4P
身近な水環境の全国一斉調査活動計画 5P
後期図書活動報告・5 年度活動計画 5～6P
私の細道（44） 6～8P
コラム、職員紹介、編集後記 8P

パートナー情報誌　ＫＡＳＵＭＩ　第３４号（通巻７２号）　発行日　令和５年４月３０日

環境学習成果発表会及び環境学習フェスタの報告

令和５年２月 18 日の土曜日に、令和２年の開催以来３年ぶりの開催となる「環境学習フェスタ」を開催いたしました。

イベント当日は、メインプログラムである「環境学習成果発表会」多目的ホール及び小展示室を会場として開催したほか、館内では市民団体等による環境に関する体験・学習・展示等のブース出展、屋外では地元の飲食店によるケータリング出店等で来場者の皆様をお迎えし、全体で 1,000 名の方にご来場いただきました。

環境学習成果発表会では、県内小中高校の児童・生徒（団体・個人９組）による日頃の環境学習や環境保全活動に係る発表が行われ、来場者の皆様にも環境への関心が高まる契機となったほか、参加した児童・生徒同士や来場者との意見交換・質疑がなされ、貴重な交流機会となりました。

市民団体等による 17 のブースが出展した館内では、多くの来場者で賑わい、楽しみながら環境について学んでいる姿を見ることができました。センターパートナーの皆様には、「光の万華鏡＆六角がえし工作体験」と「プランクトン観察」のブース出展にご協力いただきましたこと深く感謝申し上げます。

今回の環境学習フェスタでは、上記のほか、屋外に飲食ケータリングカーも出店するなど、イベント全体として大盛況のうちに無事に幕を閉じることができました。霞ケ浦環境科学センターに多くの来場者が訪れ、楽しく環境について学ぶ、そんな日常が戻りつつあることを実感した日でもあります。

令和５年度は、多くの方に楽しく環境について学ぶ機会を提供し、さらに活気あるセンターを目指して参りたいと思いますので、パートナーの皆様におかれましては引き続きご協力のほどよろしくお願いいたします。

（センター　山中）

令和４年後期パートナー霞ヶ浦クリーンUP自主活動報告・令和５年度活動計画

❏令和４年度後期活動報告

我々ができる身近な活動として「きれいな霞ヶ浦」をテーマに、パートナーやセンターのご協力のもと、霞ヶ浦湖岸（２．３km）のゴミ拾いを実施していますので、その活動結果を報告いたします。

令和３年度は新型コロナウイルスの影響により、度々活動が中止となりました。しかし近頃はコロナの対処法がみえてきたこともあり、通常に近い活動ができるようになりました。地元高校生の応援も受けたことで、活動に参加する人数も増え意欲も増しました。

回収したゴミの量は、分別後の袋数で数えると以前と変わらないですが、まとめて捨てられたゴミの量は確実に少なくなっています。社会活動の停滞で捨てられる総量が減っているのでしょうか。年末年始に多く出る大型ごみの投棄も、少なくなったと感じました。時流に後押しされての意識の高まりなのか、このままさらに減ってくれればよいのですが。

活動時には挨拶を心がけていますが、返事をかえしていただいたり、釣り人から「ゴミは持ち帰るからね。」と声をかけていただいたのは、とてもうれしい瞬間でした。

これからも多くの方が環境に関心を持っていただけるよう、活動を続けていきたいと思います。

◇令和４年度後期活動実績

・活動日：毎月１回、年間６回活動できました。

　　偶数月：第３日曜日→10／16・12／11・令和５年2／19

　　奇数月：第３金曜日→11／11・令和５年：1／20・3／17

・時間：午前９時～１１時頃

・回収総量：４１袋（回収の内訳：可燃→２７袋 不燃→１４袋　今年度活動１０回の合計。

　　昨年度は３回の活動で計２０袋。）

・参加者延人員：２９人

❏令和５年度活動計画

令和５年度は、活動日を毎月第３日曜に統一して、参加しやすいようにしたいと思います。

また、一部のパートナーの方には、センター⇔活動場所(湖岸堤)間の移動負担軽減のため、現地集合の対応をする予定です。

環境の維持改善のため、皆さまのご参加をお待ちしています。

（パートナー　佐伯）

「霞ヶ浦湖岸植物同好会」令和４年度後期活動報告

サクラタデ、サネカズラ、タンキリマメ(県Ⅱ)、オグルマなど湖岸を彩る群生が花や実を付けた。再生地でカンエンガヤツリ(国Ⅱ県準)とヌマガヤツリの群生を確認した。ナガエツルノゲイトウ(特外)生育地拡大中。

月/日	ABEFGHIJKL 区**観察概況**　（ＩＢ･Ⅱ:絶滅危惧ＩＢ類･同Ⅱ類、準:準絶滅危惧、特外:特定外来生物）
R4 10/12	ヨシ･セイタカヨシ(県準)･オギの穂が出揃い、サクラタデなどのイヌタデ属植物とセイタカアワダチソウが満開。タコノアシ(国県準)やゴキヅルが実を付けノイバラやシロダモの実が赤熟。再生地水際･消波堤植生にカンエンガヤツリ(国Ⅱ県準)とヌマガヤツリを確認。特定外来アレチウリ着果、オオバナミズキンバイ･**ナガエツルノゲイトウ**生育地拡大。
11/9	ヨシやオギのふさふさした果穂が散布中でエノキの黄葉やヌルデ･ツタの紅葉、ノイバラなどの赤い実が目立つ。イヌタデ･サクラタデなどの花被の紅色が濃くなり、ヤナギタデ、サデクサ結実。再生地に出現した**カンエンガヤツリ**(国Ⅱ県準)とヌマガヤツリの果穂が茶褐色に熟す。キヅタやカントウヨメナの花が満開でヒガンバナの葉が伸びていた。
12/14	ヤナギ類の落葉が進み葉枯れのヨシ、オギ、ヒメガマ、セイタカアワダチソウと緑葉のセイタカヨシ(県準)やセンニンソウ等、毛を付けた果実が散布中。ノイバラ･サネカズラ･マユミなどの赤い実や種子、**スイカズラ**･アオツヅラフジの黒紫色の実を観察。除去区域外で生育地を拡大している特定外来生物ミズヒマワリやナガエツルノゲイトウを確認。
R5 1/13 （個人）	ヨシやオギなどの枯れ茎は散布済み、セイタカヨシ(県準)の葉はまだ緑色が残り林立していた。日だまりでホトケノザ、ノボロギク、オオイヌノフグリなどが開花していた。裂開した莢に黒い豆を付け高木に絡んでいる**タンキリマメ**(県Ⅱ)がまだ葉を付けていた。冠毛が開いたオグルマの頭花が見られた。水路でオオフサモ(特外)が横になっていた。
2/8	セイタカヨシ(県準)の葉は枯れ、ふわふわのカワヤナギや**イヌコリヤナギ**の蕾が顔を出した。果序を付けたタコノアシ(国県準)、1本確認。オニグルミなど落葉樹の樹形や冬芽･葉痕を観察した。枯れ葉色の中で常緑樹が目立ち、法面ではウスジロアイノゲシなど越年草の葉や花が見られた。ナガエツルノゲイトウ(特外)は地下茎が生き残っていた。
3/8	カワヤナギ、イヌコリヤナギが開花しノウルシ(国県準)の芽が伸び出した。タネツケバナ、タガラシ、ヒメオドリコソウ、コハコベなどの越年草が多数花を付けていた。法面に群生するセイヨウアブラナが開花、**アイノコセイヨウタンポポ**やハルジオンは地面近くで花を開いていた。川尻川沿でヤブツバキが多数花を付け、フラサバソウの花も見られた。

10 月**ナガエツルノゲイトウ**(ヒユ科)
南米原産多年草、花序に長い柄がある。

11 月**カンエンガヤツリ**(カヤツリグサ科)
攪乱依存植物、再生地の水際に出現。

12月**スイカズラ**(スイカズラ科)
蔓性常緑木本、冬葉は縁を裏に巻く。

1月**タンキリマメ**(マメ科)蔓性多年草
暖地性植物、果期が長く落葉も遅い。

2月**イヌコリヤナギ**(ヤナギ科)落葉低木
葉と同様、蕾も偽対生。

3 月**アイノコセイヨウタンポポ**(キク科)
総苞外片がカントウタンポポとの中間形。

（霞ヶ浦湖岸植物同好会　パートナー　二階堂）

「霞ヶ浦湖岸植物同好会」令和５年度活動計画

環境学習推進活動の一環として、センター主催の**「自然観察会(植物)」**に於ける補助活動及び**「いきもののにわ」**の整備・観察学習活動とパートナー自主企画活動の**「湖岸植物定点観察」**を行う。

自然観察会は霞ヶ浦が育む豊かな自然に直接触れることにより、霞ヶ浦に興味・関心を持ち理解と親愛を深めてもらう目的で実施される。

湖岸植物定点観察は自然再生地を含む湖岸(下図)で、環境の変化等が植物相に及ぼす影響を見るため原則毎月第２水曜日に実施する。水辺の代表的な種、絶滅危惧種等の希少種、特定外来生物等は年間を通して生育状態や生活史、分布状況や消長などを継続観察する。毎月、観察の概要と共にこれらの花や実、冬芽(葉痕)や展葉など旬の植物写真に説明を付けて 2 階展示コーナーに掲示する。またこれまでの観察結果を活かしてヤナギトラノオ等希少種の保全活動をしたり、オオバナミズキンバイ等特定外来生物の防除に役立てたりする。

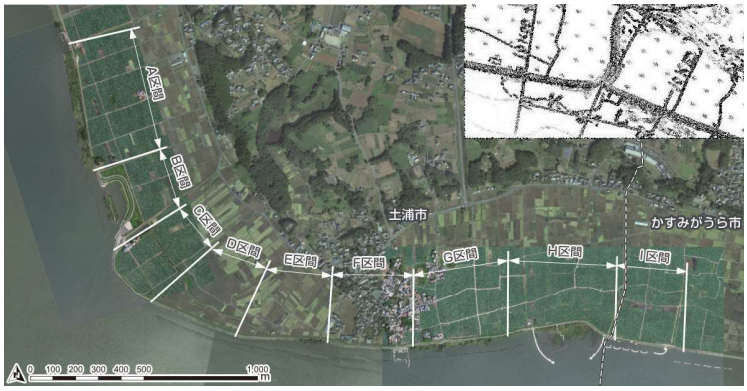
R4.10.16 自然観察会「霞ヶ浦で**オオバナミズキンバイ**(特外)を…」

アサザ(国準県Ⅱ) R4.6.8H 区再生地

各区の特徴と注目種等

写真：霞ヶ浦河川事務所
挿入地図：川尻川周辺

〔希少種・外来種等の略語表記〕
ⅠB,Ⅱ,準：絶滅危惧ⅠB類,Ⅱ類,準絶滅危惧
特外：特定外来生物



A 区：再生地(H19～工事)
北小池オニナルコスゲ，南小池サジオモダカ(県準)，南池ミズヒマワリ(特外)，弁天前改修低地・笹藪跡地(R2.3 施行)サジオモダカ(県準)，ジョウロウスゲ(国Ⅱ県準)，カサスゲ，弁天周囲オドリコソウ

カンエンガヤツリ(国Ⅱ県準) R4.11.9H 区再生地

ミズヒマワリ(特外) R4.11.9H 区再生地

B 区：(H25.3 引堤工事完了)(R3.3 月幅 3m低地盤上げ)(R5.2 低地一斉草刈)
タコノアシ(国県準)，ジョウロウスゲ(国Ⅱ県準)，ミゾコウジュ(国Ⅱ県準)R4 出現，ミズヒマワリ(特外)，アレチウリ(特外)R4 裏法密生広範囲，島(旧堤)セイタカヨシ(県準)

HI区：(H27-29 再生事業)事業前からある種；ヤナギトラノオ(県Ⅱ)，ジョウロウスゲ(国Ⅱ県準)，ミクリ(国県準)，ノアズキ(県準)，セイタカヨシ(県準)，オニナルコスゲ，ドクゼリ，マツカサススキ，事業中～後に出現した種；アサザ(国準県Ⅱ)，カンエンガヤツリ(国Ⅱ県準)，タコノアシ(国県準)，カワヂシャ(国県準)，ウスゲチョウジタデ(国県準)，フトイ，ヒロハノコウガイゼキショウ，サンショウモ(国Ⅱ県ⅠB)，ノニガナ(県準)，ナガエツルノゲイトウ(特外:R4.9 初認)，オオバナミズキンバイ(特外)，ミズヒマワリ(特外)，オオフサモ(特外)

E 区：(H29-30：樹木を含めた広範囲の皆伐)
ノウルシ(国県準)，セイタカヨシ(県準)，ヤワラスゲ，ハンゲショウ，イヌドクサ，アレチウリ(特外)，ミズヒマワリ(特外)，ナガエツルノゲイトウ(特外:R3.8 初認)

G 区：ノウルシ(国県準)，ヌマアゼスゲ(国Ⅱ県ⅠB)，マツモ(県準)堤脚水路

J 区：(H15 ウェットランド消波堤)ナガエツルノゲイトウ(特外:R3.7 初認)

K 区：アサマスゲ(国準県ⅠB)，オグルマ，タンキリマメ(県Ⅱ)，ヒメカジイチゴ

L 区：(川尻川沿)タンキリマメ(県Ⅱ)，ヤブマオ，オオフサモ(特外)堤脚水路

〔日程〕9:00 集合（冬季は 9:30） 準備(記録用紙,カメラ他)
9:30～12:00 現地 12:15～昼食 12:45～13:00 新出種等確認
13:00～14:00 記録整理(写真名前付け・展示物選出)

「いきもののにわ」整備活動の予定

原則毎月第４水曜日　10：00～11：30　(集合　作業確認　作業・休憩　片付け)
作業内容：除草，間引き，移植，コンテナ・プランターの整理，名札整備等
(霞ヶ浦湖岸植物同好会　パートナー　二階堂)

湖岸植物定点観察の年間予定

活動年月日	原則第 2 水曜日
R5- 4-12	春季 9：00 集合
5-10	"
6-14	夏季 9：00 集合
7-12	"
8-9	"
9-13	秋季 9：00 集合
10-11	"
11-8	"
12-6(第 1)	冬季 9：30 集合
R6-1-10	"
2-14	"
3-13 3-27 (庭整備終了後～)	春季 9：00 集合 同好会打ち合わせ (R5 年度まとめ・新年度の活動計画)

第２０回身近な水環境の全国一斉調査活動計画

本活動は平成２５年６月の「第１０回身近な水環境の全国一斉調査」から続けて参加している活動です。第２０回（令和５年）で連続１１回の参加となります。第２０回身近な水環境の全国一斉調査は、継続調査１地点、新規調査３地点の下記４地点で東京・国分寺市の全国水環境マップ実行委員会事務局へ参加申込みをしました。調査内容は下記のとおりです。パートナーの皆さん、是非参加して下さい。お待ちしております。

・調査日（予定日）：令和５年６月４日（日）

・調査内容、方法：統一調査マニュアルに基づく気温、水温、試水水温、パックテストによる COD 測定、透視度、電気伝導度を調査。この他、特記事項として水辺の状況・流れ・濁り・散乱ごみ、川の変化についての意見（今と昔）の実施。

・調査地点：清明川（清明橋）、小野川（弁天橋）、巴川（にのはし）、新川（神天橋）の 4 地点です。

調査風景　巴川（にのはし附近）R4.6.5

清明川（阿見町岡崎３－１８－３）R4.6.5

（パートナー　浅野）

令和４年度後期図書活動報告及び令和５年度図書活動計画

1、文献資料室の図書紹介文の作成

活動日は原則毎月第２、第４金曜日です。令和４（2022）年度後期の紹介本は、新規購入図書（寄贈図書を含む）を中心に 36 冊でした。紹介本の内容は次号、香澄第３５号（令和５年７月３１日発行）に掲載致します。紹介本そのものはセンター２階交流サロンに「パートナーが選んだおすすめの本コーナー」が有りますので、どうぞご覧下さい。

参加パートナー（浅野、高石、古田）

図書紹介活動

２、読み聞かせ活動

文献資料室所蔵の絵本、紙芝居等の中から自然保護や水質汚染、地球温暖化など環境問題を題材にしたものを中心に読み聞かせ実演をしています。

活動日は原則第４土曜日の午前 10 時 30 分～／午後 2 時～の２回です。令和４（2022）年度後期は 10/22,11/26,12/24,1/28,2/25,3/25 の６日間。午前、午後の計 11 回実演で（12/24 の午後は参加者無しのた

め研修でした)、参加者は大人 48 名、子ども 57 名の計 105 名でした。参加者にはパートナー手作りの「しおり」をプレゼントしています。また、参加者の増加を目指してパートナーによるマジックの実演も取り入れております。

令和５年度の活動計画は、活動日が８月は第３（土)、９月は第５(土)に変更以外は令和４年度と同じ内容です。

参加パートナー

（浅野、江畑、小松、戸嶋、森田、石井：高校生）

読み聞かせ活動

３、新聞スクラップの作成

[活動日]　毎月原則２回（第 2，4 週の金曜日）

[活動内容]　朝日、毎日、読売、日本経済、茨城の５新聞を対象とし、下記テーマに基づいて記事をピックアップ、編集、ファイリングしています。

[テーマ]①霞ヶ浦流域における河川、湖沼などに関する情報に限定。

②生物多様性、地球温暖化など環境問題をテーマとした情報に限定。

令和４年（2022）年度後期は 10/7,21　11/11,25　12/9,23　1/13,27　2/10,24　3/10　24　　計 12 日活動しました。

令和５年度はスクラップ活動で活用されていた新聞が５紙から朝日、読売、茨城の３紙となります。それ以外の内容は、令和４年度と同じです。

新聞スクラップ活動

参加パートナ（内田、岡田、小神野、小野）

（パートナー　浅野）

私の細道（その４４）　象潟

元禄２年６月 16 日（陽暦 1689 年８月１日）芭蕉と曾良は、「眺めともにせん」と期待していた象潟にやっと辿り着いた。「江山水陸の風光数を尽くして、今象潟に方寸を責む」と漢文調でこの章段は始まる。

現在の象潟は、芭蕉らの訪れた時から約 100 年後、1804 年に起きた象潟大地震によって、潟が隆起して陸地と化したが、当時は潟内に小島が点在する名勝地であった。芭蕉は象潟を中国杭州古来の景勝地「西湖」を意識して筆を進める。また「この地を訪れた能因が西行が・・」と先達の記念（かたみ）を求めようとする芭蕉の思いが息衝いている。(どうもこの先達二人が実際に当地を訪れた確証はないらしいが)。更に「松島は笑ふがごとく、象潟は憾むがごとし」と両者それぞれの特質を表現している。

芭蕉らが象潟に入った日は雨であった。次日は晴れて、蚶満寺参拝後、丁度、熊野権現の祭の日であったので踊りを見て、潟内を舟でも見物している。能因ゆかりの島にも入ったようだ。夜は、宿に戻り、地元の俳人らと句会を持っている。象潟を中国の西湖と見立てた芭蕉はかの有名な句を残している。

象潟や雨に西施がねぶの花　　芭蕉

蚶満寺山門

象潟の美しさを古代中国四大美女の一人、越の「西施」に例え、「ねぶの花」を「眠り」へと想起して、「美女の眠り」へと描写したと解釈されている。

この折、丁度、芭蕉来訪を聞き付けて来たのであろうか、美濃の行商人宮部弥三郎（俳号：低耳）も句会に加わり、その句が「おくのほそ道」に取り上げられている。

蜑の家（あまのや）や戸板を敷きて夕涼み　　低耳

私は、2022 年（令和 4 年）8 月 23 日に象潟を訪れた。前日宿泊した鶴岡は朝方曇り空だった。待望の象潟へ、レンタカーで 8 時半ごろ出発。ところが、酒田辺りから時折雨が降り出す。国道 7 号から高速道を経て、また 7 号バイパス。たいした雨ではないが、鳥海山は雲の中。そしてまず象潟駅へ直行。駅に着いた途端にドッと大雨。間一髪で駅舎に飛び込んだ。こじんまりした駅には観光案内所はあったが、今日は休み。待合室には芭蕉の案内パンフレットや看板表示で溢れている。さすが芭蕉の町だと思った。

雨が小止みになるのを待って、蚶満寺へ。大石田の西光寺で出会った旅行者に「芭蕉を追うなら是非、象潟へ。象潟なら蚶満寺へ行くべし」と勧められていた。

蚶満寺

小雨の中の蚶満寺。古刹の風貌あり。案内板や表示板を見ながら門を潜ると本堂の前に立つ。雨の中で誰もいない。本堂の傍らにある住家の周りをうろうろしたため、不審者と間違えられたか、声掛けしても応答はない。雨がだんだん強くなってきた。雨宿り出来るところは、本堂の境内のみ。しばしその境内に腰掛けて屋根から落ちる大粒の雨を眺めていた。まさに「雨もまた奇なり」を体験した。うっそうとした森である。雨に打たれる薄暗い木々の中に、唯一の彩を添える百日紅の赤。大きな椿の木があり、「夜泣きの椿」と記載されている。

どのくらい、雨宿りしていただろう。小雨になったところを見計らって車に戻った。また、雨が強くなる。この状況では蚶満寺での散策は無理と思い、郷土資料館を訪ねた。館長で郷土史研究会員である齋藤一樹氏が応対して下さり、芭蕉の象潟についてご説明頂いた。そして、芭蕉を歓待した地元の人々について記された氏の稿が掲載されている郷土史研究会報「雄波郷」を紹介頂いた。それによると、宿の主人・佐々木孫左衛門、名主の今野又左衛門、その弟嘉兵衛の 3 人は俳諧をする人で、芭蕉らを手厚く持て成したことが曾良の日記から想像されると。酒田の不玉とも交流があったようで、恐らく象潟での厚遇は不玉の口添えによるものであろう。更に、齋藤氏は、行商人宮部弥三郎（低耳）こそが芭蕉らの日本海沿岸の今後の旅宿を紹介していったのではないかと推定している。この低耳の上記の句が象潟の章段で掲載されており、「おくのほそ道」の中に収載された句で芭蕉と曾良以外では唯一であることが興味深い。意味がありそうである。

更に更に、芭蕉らが島めぐりした際の船頭が後に俳人となり、「蚶棹」と号したという興味深い話もある。

象潟といえば雨の印象が強い。2020 年 11 月に象潟の手前、吹浦まで来た時にも大雨で、象潟訪問を先延ばしにした。そういえば、嵐山光三郎の「芭蕉紀行」にも、彼はしっかり象潟を見物してはいたが、帰りの象潟駅に着いたところで急に土砂降りの雨になったと記している。森本哲郎の「おくのほそ道行」の写真を

見ても、雨に打たれた合歓の花や田畑に点在する九十九島も雨上がりのような景であった。

残念ながら、今回の旅でも象潟のどこを見たのだろうと忸怩たる思いを禁じ得ない。しかし、「歌枕」とはそのようなものであるのかもしれない。古の名勝地の変貌した姿をも見損ねているという複雑さを残して、象潟を後にした。

（パートナー　小松）

コラム「新聞スクラップ記事から」

霞ケ浦環境科学センターの環境関連の収集新聞記事から、話題性を踏まえご紹介しています。平成４年１２月の記事に、県内の鮭の捕獲数が過去最低の４１２匹となったというものがありました。最盛期の約１００分の１の量との事。地球温暖化の影響か茨城県沿岸の海水温が高く、低温を好む鮭の、稚魚の北上や親魚の南下を阻害している為ではないかとの事です。真夏日が長く続く近年、温暖化が湖沼の生態系へ与える影響はないでしょうか。

（パートナー　古田）

パートナーに関係する新任センター職員の紹介

副センター長兼総務課長　打越（うちこし）　雄二（ゆうじ）

環境活動推進課　課長　倉又（くらまた）　英幸（ひでゆき）

係長　川西（かわにし）　栄次（えいじ）　　主事　圷（あくつ）　立樹（たてき）

主事　中山（なかやま）　歩美（あゆみ）　　主事　前野（まえの）　祐里奈（ゆりな）

＊＊＊＜編集後記＞＊＊＊

パートナー情報誌 Kasumi 香澄

３年ぶりに開催された、環境学習フェスタ開催報告を始め、「霞ヶ浦湖岸植物同好会」の活動報告と計画、パートナー霞ヶ浦クリーンＵＰ自主活動、図書紹介、読み聞かせ、新聞スクラップそれぞれの活動報告、第20回身近な水環境の全国一斉調査計画、連載「私の細道」（その44）、コラムに加えて新任センター職員紹介、各記事のご提供により８ページ編成とすることができました。執筆を賜りましたパートナーの皆様におかれましては、ありがとうございました。

５月８日以降、新型コロナウィルス感染症の法律上の区分が第５類とされることによる流行状況の監視体制が「全数把握」から「定点把握」へ換わるという。感染者数で一喜一憂することはもうなくなりそうです。日常生活についても予防対策が緩和される向きが見られます。しかし、ウィルスの本質が代わるわけではなく、罹らないことうつさないことに勝る対策はありません。その存在を常に意識し、予防を心がけ感染時には充分な療養をとり、注意喚起を継続していくことが肝腎です。

パートナーの皆様には、引き続き感染症対策を講じた上で、コロナ以前に増しての活発な活動をご期待申し上げます。

（パートナー　栗原）

「香澄」編集委員会　：浅野明宏、有吉潔、栗原繁、矢島信克、樽見博文